

# 日本語能力試験の今後 ～ 変わること、変わらないこと～

国際交流基金関西国際センター試験課  
こくさいこうりゅうきん かんさいこくさいこくさい しけんか

## はじめに

国際交流基金および財団法人日本国際教育協会は、日本国内および海外において、日本語を母語としない人を対象として、その日本語能力を測定し、認定することを目的に、1984年より「日本語能力試験」を実施しています。この試験の受験者数は、実施初年の1984年は7,019名でしたが、2000年には201,021名と約30倍に増加しました。

## 1. 日本留学試験の開始

この日本語能力試験の役割が2002年より少し変わります。今までは、日本の大学に私費での留学を希望する人に対しては、多くの国公立大学が日本語能力試験の1級または2級の受験を課していましたが、2002年からは「日本留学試験」の開始に伴い、この留学生選考の役割は日本留学試験が担うこととなります。このため、日本語能力試験においては、受験者からの依頼でその成績を留学希望先の大学へ通知することは、2002年12月の試験からはいたしません。日本の大学への留学を考えている人は注意が必要です。なお、日本留学試験の詳細につきましては、実施団体の財団法人日本国際教育協会にご照会ください。

日本留学試験に関するお問い合わせは下記までお願いします。  
〒153-8503 東京都目黒区駒場 4-5-29  
財団法人日本国際教育協会 事業部試験課  
TEL: 03-5454-5338 FAX: 03-5454-5339 E-Mail: nel@aije.or.jp

## 2. 「出題基準」の改訂

日本語能力試験の「出題基準」は1994年に公開され、試験問題作成者だけでなく受験者や日本語教育関係者にも広く利用されてきました。しかし、それから10年近くが経過し、日本語教育が質的にも量的にも多様なひろがりを見せるようになるにつれ、「出題基準」の改訂を望む声が高まってきました。

このため、「出題基準」の一部を改訂し、2002年の試験から適用することとしました。今回は「文字」と「語彙」の改訂がほとんどですが、その概略は以下のとおりです。

### (1) 「まえがき」の中の『出題基準』の基本的性格の記述の一部改めました。

これまでの「出題基準」では、リストからの出題割合の目安を一括して示していたため、読む人に誤解を与えるおそれがありました。そこで、記述の一部改め、リストからの出題割合の目安を類ごとに示しました。特に、1・2級の文法において、「機能語」の類のリストはあくまでおよそのレベルを示すためのサンプルであることを確認し、出題の目安がこのリストに制限されるものではないことを明記しました。

### (2) 「出題基準」各級の文字表と語彙表を見直し、変更を加えました。

改訂の方針は概ね以下のとおりです。

イ 文字の出題級と語彙の出題級が大きく異なる文字または語彙について、文字と語彙の級の差を縮めるようにしました。例えば、「みみ」ということばは、従来の「出題基準」では4級の語彙とされていました。一方、漢字の

「耳」は2級で出題されるものとされていました。つまり、語彙としての「みみ」と漢字としての「耳」に、級2つ分の開きがあるということです。語彙としての難しさと漢字としての難しさは必ずしも同じではありませんが、あまりに開きが大きいものは差を縮めるべきだと考え、前出の「みみ」の場合は、漢字の「耳」を2級から4級に下げました。

口 意味あるいは用法の面からみて、おそらく同時に学ぶだろうと思われる類語や対義語について、級の差を縮めるようにしました。例えば、これまでの「出題基準」では、「輸出」という言葉は3級の語彙表にありましたが、対義語である「輸入」は2級の語彙でした。二つの言葉は「出」と「入」の違いだけであって、使われる場面や文法的性質などは同じですので、語彙級は同じであるほうがよいでしょう。そこで今回の改訂では、「輸入」を2級から3級に変更し、両者の級を揃えました。

八 現代の日常生活において一般に広く使用されている外来語を新たに取り入れました。例えば、「ラジカセ」「パソコン」「メール(eメール/Eメール)」などです。また、縮約形や表記のゆれなども考慮し、さらには平成3(1991)年の内閣告示「外来語の表記」なども参照しつつ、より適当な外来語表記を採用しました。例えば、以前は「virus」を表記するのに「ビールス」と書いていましたが、現在では「コンピューターウイルス」などのように「ウイルス」と表記されることが多くなっています。そこで今回の改訂でも、「ビールス」(1級語彙)を「ウイルス」(1級語彙)に変更しました。

二 .「形容動詞は語幹の形で示す」(『出題基準』p.12)との原則に基づき、形容動詞の表記を見直しました。

ホ 文法のリストと語彙表の両方に載っていて、級が異なるいくつかの表現を見直し、出題級を合わせるようにしました。例えば、「食べはじめる」「読みはじめる」などの「～はじめる」は文法のリストでは3級とされていましたが、語彙表では2級語彙となっていました。今回の改訂では、文法のリストに合わせて語彙級を2級から3級に下げました。

へ .1・2級語彙表の留意事項に、複合語・慣用句に関する記述を加えました。

ト 従来の「出題基準」では、3・4級のあいさつ語等表現は一覧の形でまとめられていましたが、1・2級のあいさつ語等表現は語彙表の中に含まれていました。今回の改訂で、全ての級のあいさつ語等表現を一覧にまとめました。

(3) 文法(3・4級)のリストにも、1ヶ所変更があります。

「私は犬が好きです。」「ゾウは鼻が長いです。」のような「～は～が～です」の文型を、従来の3級から4級に変更しました。「好き/嫌い/上手/下手/できる」などは「～は～が～です」の文型をとりますが、これらの語彙は4級です。今回の改訂では、過去の出題における正答率なども考慮し、「～は～が～です」の文型を4級の文法の範囲に含めてさしつかえないと判断しました。



～ 試行試験実施風景(国際交流基金シドニー日本語センター)

なお、改訂の詳細につきましては、お近くの国際交流基金海外事務所にお問い合わせいただくか、国際交流基金のウェブサイト(<http://www.jpff.go.jp/j/>)をご覧ください。

### 3. 口頭能力試験を開発するための研究

こうとうのうりよくしけん かいほつ けんきゅう

現在の日本語能力試験は、口頭能力を測定する科目がありませんが、海外の日本語教育関係者からは口頭能力試験を開発してほしいとの声がよく聞かれます。このため、日本語能力試験企画小委員会では、調査部会を設け、口頭能力試験を開発するための研究を進めています。海外で実施することを考えますと、必要な数だけテスト（出題する人）を確保することが困難と思われることから、テストが直接出題するのではなく、ビデオなどの機材を用いて出題することを考えています。



第1回試行試験では、ビデオで出題する形式を採用しました。2000年2月～3月に、第1回試行試験を実施し、テストとビデオの2つの形式で問題を出題しました。試験結果を分析した結果、ビデオによる出題においてもサンプルが得られることがわかりました。



口頭能力試験開発のための第2回試行試験は、第1回試行試験を進展させ、コンピューターによって出題する方法を採用しました。現在、2001年8月から9月にかけて実施された試行試験の結果を分析しているところです。

この口頭能力試験をいつからどこで実施するかは現在検討中です。具体的な日程や実施場所が決まりましたら、またこの『日本語教育通信』でお知らせします。

### — コンピュータによる口頭能力試験

こうとうのうりよくしけん



### おわりに

冒頭で述べたように、日本語能力試験の受験者数は20万人を越えました。その年齢や職業は様々ですが、なかには視覚や聴覚に障害を持っている人もいます。このため、日本語の点字試験や紙面を拡大した問題用紙を用意して、受験者の要望に応えるようにしています。

国際交流基金および財団法人日本国際教育協会は、全世界の日本語学習者を対象とした唯一の総合的な日本語テストである日本語能力試験の充実のために今後も努力していきたいと考えています。日本語能力試験に関して、ご意見やご感想がございましたら、どうぞ国際交流基金関西国際センターまでお知らせください。

〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート北3-14  
おおさか ふ せんなんぐん た じりちゆう きた  
TEL. 81-724-90-2603 FAX. 81-724-90-2803  
E-mail: jlptinfo@jpf.go.jp  
URL: www.iijnet.or.jp/jpf/jlpt/contents/home.html